

庄下川のカルガモ親子の姿から…

用務員さんたちが、つき山のツツジをきれいに剪定してくださいました。これで来年も美しい花が見られることでしょう。一方、カラーロードの紫陽花たちがいよいよ色づき始めました。美しい環境で過ごせる立北の子どもたちは幸せです。



先日、学校近くを流れる庄下川にこの季節の風物詩でもあるカルガモの親子が姿を現しました。親ガモは、流れがゆるやかな日をちゃんと選んで、10羽の子どもたちに「集団行動」と「泳ぎ」を教えていました。バラバラになると、たちまちカラスに



狙われるため、親ガモは真剣そのもの、子ガモから決して目を離しません。一週間程たったある日、全く違う場所で再びカルガモの親子を発見しました。子ガモたちは、川辺の茂みで楽しそうに遊んでいます。と、次の瞬間、親ガモが泳ぎ出し、どんどん子どもたちから離れて行くではありませんか。すると驚いたことに、さっきまで動き回っていた子ガモたちが、ピクリとも動かなくなりました。よく見ないと、そこにいることにも全く気づかないくらい賢くじっとしている子ガモたち。これも命を守る大事な訓練なのだと感心しました。厳しい自然の中で生き抜くカルガモ親子の姿から、我われ人間は学ぶところがたくさんあるような気がしました。



ぜひ、子どもたちに達成感を！



先日、参加した研修会で平田オリザ先生のお話を伺う機会がありました。平田先生は、世界的な劇作家であり、兵庫県立芸術文化観光専門職大学の学長として、これからの教育のあり方について研究をされています。沢山あった学びの中でも、特に印象に残ったお話を少しご紹介します。

「やる気や協調性、忍耐力や自制心等、人の心や社会性に関わる大切な力は『非認知能力』と呼ばれ、学力テストでは測定することができません。それは、小学校のうちに「みんなで力を合わせてひとつのことを創り上げる経験」そして「大きな拍手をもらって達成感を味わう経験」によって育まれます。これからの世の中では、「競争に勝ち抜く力」ではなく、例えば「困っている友達にこっそりと助け船を出せる力」が求められています。」そんなお話でした。こっそりと助けてあげられる子、立北には沢山いるな…と思いつかべながらお話を聴いていました。

今、体育大会に向けて、子どもたちはまさに力を合わせて頑張っています。当日はぜひ、子どもたちの頑張りをしっかり感じていただき、盛大な拍手を子どもたちにお送りください。どうぞよろしく願いたします。

